



科学 IN SF *The Science in Science Fiction* (1982) ピーター・ニコルズ編 (小隅黎・監訳) 東京書籍 (4/30刊・¥4800)

ピーター・ニコルズ編 (SF エンサイクロペディアの編者) の科学図鑑 (風) の一冊。まあ、端的に言って、SF に書かれた「サイエンス」を客観的に評価、分類 (大まかに) した本である。SF 小説自体というより、そこでの設定やアイデアが、どの程度確かなものなのかを、検証する立場で編纂されている。もっとも、執筆者は、ピーター・ニコルズ、ブライアン・ステイブルフォード、デイヴィッド・ラングフォードら、いわばファンたちだから、那样的外れな内容でもない。面白いのは、「SF はどこで間違いを犯すか」という章。細かいのや、大きいので、さまざまな誤りを指摘している。たとえば、星虹は見えないとか、マイクロ・ブラックホールは存在しないとか、さほどびっくりする新発見はないが、アラ捜しはやっぱ楽しい。しかし、ここまで考えていくと、ハード SF なんてとても書けませんねえ、大変だ。

日本版への序文が書かれていて、最近の SF はファンタジーへと流れすぎている、という編者の慨嘆がある。これは、心あるファンの本音だと思う——けれど、はたして本格 SF は復興できるのだろうか。

(俊)